

〈史料翻刻〉

紀州藩家老三浦家文書（二五）

—江戸出府日記・御用番留帳—

上
村
雅
洋

凡例

- 五七 江戸出府日記（寛文一〇年二月晦日～三月二八日）
五八 御用番留帳（寛文一〇年三月一八日～七月二九日）

凡例

一 本文書は、和歌山大学紀州経済史文化史研究所蔵の紀州藩家老三浦家文書であり、日記類を中心にほぼ年代を追って逐次翻刻する。三浦家文書については、本誌第四号所収の「紀州藩家老三浦家文書目録」を参照されたい。

一 史料名は、できるだけ「紀州藩家老三浦家文書目録」を踏襲した。

一 使用字体は、常用漢字を用い、それ以外は異字・俗字・略字もなるべく原文のままを尊重した。

一 仮名文字は、江・而・者・茂以外は、すべて現行の字体に改めた。

一 印刷にさいしては、なるべく原本の体裁をとどめることを原則としたが、組版の都合上一部改めた。

一 本文が訂正されている場合は、書き改められたものを採用した。

一 印章はいちいち模刻せず、・のように輪郭を模した。

一 虫損・破損などによって文字が判読できない場合には、字数を推定して□で埋め、字数が推定できない時は、をもってその箇所を示した。

一 本文以外の部分は、上下に「」を付し、(表紙) (端書) (異筆) (付箋) などと傍注した。

一 文字の誤脱などには()で傍注を加えたが、判読可能なものについては、特に注記しなかったものもある。

一 文意の通じないもの、疑義のあるものには(ママ)と傍注し、推定可能なものには(カ)と傍注して意見を示した。

一 本文書の筆耕ならびに校訂は、上村雅洋(本学名誉教授)が行った。

五七 江戸出府日記

(表書)
寛文十年

戌ノ二月晦日三月十八日迄

二月晦日

今朝五時分ニ江戸罷立、川崎ニ而休、戸塚へ七過ニ参着

三月朔日 昼時分少雨

今朝夜明ニ戸塚ヲ出、大磯ニ而休、八過ニ小田原へ参着

同二日

今朝日ノ出ニ小田原ヲ出、箱根ニ而休、八過ニ沼津へ参着

同三日 暮合夕雨

大殿様夜前奥津ニ御泊被遊、今朝奥津御船ニ而久野へ御参詣被遊、丸子ニ御休、藤枝へ御越御一宿被遊候、拙者儀

今朝夜ル七時分ニ沼津罷立、蒲原ニて休、江尻ニ而右之御

様子承合、暮合ニ丸子へ参着仕候

同四日 終日雨

今朝夜ルの七前ニ丸子罷立、朝五前ニ藤枝へ参着仕、則致

御目見仕合残所無御座候

一来八日時分、勢州松坂か白子両所の内ニ而殿様と御対面被遊、御暇乞ヲも可被遊旨ニ御座候ニ付、拙者儀御跡ニ付参候へハ、其節御渡海ニまワリ合不申候間、少つ、御先へ参候而ハ如何可有御座候哉、兎も角も御意次第之旨申上候処ニ、尤ニ被為思召候間、勝手次第ニ可致伺公旨被仰出候ニ付、藤枝先嶋田迄参、大井川御渡り被為成候御跡ニ付、金谷へ参候

一今度左京様御領地御拝領被遊候、為御礼渡部一学江戸へ御指越被為成候ニ付而、金谷ニ而大殿様へ一学致御目見御口上申上候、就夫拙者式ニも御意之旨御座候由、一学申越候ニ付御意之段承、扱又御跡ニ付日坂へ参致御目見、是又首尾能又御跡ニ付懸川迄参、御宿へ被為人候と又致御目見、是又首尾残所無之、扱御先へ罷越、夜ルの五前ニ袋井へ参着、一宿仕候

同五日 晩方雨

大殿様御機嫌弥能、今日酉ノ刻ニ荒井へ御着座被遊候由、御機嫌為何岡七郎兵衛荒井ニ残置申候、拙者儀今朝夜明ニ袋井罷立、浜松ニ而休、七半時分ニ二川へ参着仕候

同六日

大殿様弥御機嫌能、今晚赤坂ニ御一宿被遊候、拙者儀今朝夜明ニ二川罷立、赤坂ニ而休、池鯉鮒へ七前ニ參着仕候、岡崎罷通候節、監物方々使者ヲ出し立寄候様ニと申越候へ共、急候而御先へ罷越候由申候而立寄不申候

同七日

大殿様今晚鳴海ニ御一宿被遊筈也、拙者儀池鯉鮒ヲ未明ニ罷立、熱田へ五過ニ參着、宿へちらと立寄、則出船日より能候而、昼前ニ桑名へ着船支度いたし、八時分桑名罷立、白子へ夜ニ入、五前ニ參着

同八日 夜ニ入雨

大殿様今朝鳴海今大湊へか松坂へ御渡海可被遊と被為思召候処ニ、日より悪布御座候ニ付、八半時分ニ白子へ御着船被遊候

一 殿様今朝四時分ニ松坂へ御着被遊、大殿様御着船之御待被成御座候、拙者儀今朝五時分ニ白子罷立、八前ニ松坂へ參着仕候、然所ニ殿様御出被為成候と承、早々御殿へ罷出、首尾能御目見仕、過分忝御意共也

一 右御出可被成との御儀ハ、今日ハ日より悪布候間、松坂へ

御渡海ハ難被遊之由、船手之者申上候ニ付、左候ハ、白子近辺迄御出被為成、大殿様御着船之所ヲ御聞合被成、則御出むかい御対顔可被遊との御儀也、然其何も申上候ハ、今日白子へ御渡海不被成儀も可有御座処ニ、はるく御出被為成、殊津之城下度々御通り被為成候も如何ニ御座候、其上白子へ御着船被遊候ハ、御左右可被成由、市十郎、平次右衛門方々兼々申上候由ニ御座候間、兎角御聞合被為成御尤ニ奉存之旨、何も立而申上候ニ付、左候ハ、先御延引可被成由ニ而御出之儀御やめ被為成候

一 然其白子へ被成御座、御機嫌御伺可被成との御意ニ而御出被為成候、左候ハ、追付市十郎、平次右衛門方々御左右可申上候間、御左右御聞被遊候ハ、路次々御戻り被為成、可然之旨何も申上候処ニ、左様にも可被成との御儀ニ而御出被為成候、然所ニ大殿様松坂へ御越被成之旨申来候ニ付、其段御跡々御用人衆申上候ニ付而、尚以御むかいながら御出被成、路次ニ而御対面被遊候由

一 大殿様御機嫌能夜ニ入四時分ニ松坂御城へ被為人候、追付殿様にも御登城被遊御対面、御のし出御益こと被遊、しバラく御咄被為成、御両殿様御機嫌残所無御座候

一大殿様松坂へ被為人候刻、拙者宿之前ニ而致御目見、夫
御城へ御供仕罷上、右御対顔之節御あいさつ申上、殿様御
在國中、大殿様分被為人御念候御儀とも之御礼御書付ニ被
成、拙者ニ御渡被為成候ニ付、其段御対面之節申上、右御
書付指上申候

一大殿様御城へ被為人候と、則殿様へ拙者ニ申上候様ニとの
御儀、先殿様ニも御延慮なく御城ニ被為成御座候様ニとの
御事、扨明後十日之朝、殿様分御膳御上可被成との御儀、
弥其通ニ被遊候様ニ、又十日之晩ハ大殿様分御振廻可被遊
由、併十日日よりも能候而御渡海可然候ハ、晩之御振廻
ヲ昼ニ被遊、則御出立之御振廻ニ可被成候、又十一日御出
船可被成との儀ニ御座候ハ、右之通十日之晩御振廻被遊
十一日ハ未明ニ御船ニ被為召朝風ニ、先もろ崎、しの嶋辺
迄御渡海被遊、夫吉田へ被為召上候、御心易御事ニ御座
候との御意とも也、此段中納言様御殿へ致伺公可申上と存
御城罷出候処ニ、はや御登城被遊候ニ付、路次にて致御目
見、御城へ之御供仕、御城ニ而右之段申上、則御礼ヲも被
仰上候

一右之通之御意ニ而御座候へ共、今晚ハ最早夜ふけ申候間、

先町之御宿ニ今晚ハ御一宿可被遊との御儀ニ而御帰被為成
候、其以後拙者も帰宿仕候、夜半過也

一今七時分ニ殿様分御使者として高田久大夫方被成下、今度
大殿様万事御首尾残所無御座、沙汰も御機嫌能御上り被為
成候段御太悦ニ被為思召候、拙者儀つ、がなく御供仕罷上
候との過分忝御意ニ而、御肴致拝領候、則為御礼罷上、天
野七郎右方ニ御礼之段申上帰宿仕候、扨右之通夜ニ入、出
御之時分罷出候ニ付、今日ハ三度御殿へ罷出候

同九日 終日雨

今朝五過ニ殿様御旅宿へ致伺公首尾能御目見仕、夫分御城
へ罷上候

一殿様追付御城へ被成御座、頓而大殿様へ御対面被遊候、其
節御前へ罷出御あいさつ申上候、扨良しバラく御咄御座候
而、先御書院へ殿様御出被為成候

一昼時分ニ又殿様奥へ御通り被成、良しバラく御咄御座候而、
八時分ニ御退出被遊候

一明朝大殿様へ御膳御上被為成候ニ付而、拙者ニも御勝手ニ
而御料理可被下之旨、於御城津田治兵衛を以被仰聞候ニ付
而、御退出之御跡ニ付、則御旅宿へ致伺公、垣谷十郎兵方

へ右御礼之段申上、帰宿仕候

一七過ニ又殿様御城へ被為成御座候由、拙者儀頃手のゆび痛申候ニ付、薬を付養生いたし候故、今晚ハ不罷出候

一久野丹波守今度致御供候ニ付、京都へ立寄、光君様へ御祝儀申上、一条様へも御礼申上、内膳殿へも見廻候由ニ而、今日松坂へ参着申候

同十日

今朝大殿様へ殿様御膳御上被為成候、種々御ていねいなる御馳走、尤御きうじ被遊、御茶ヲも御手前ニ而御上被成候、其上ニ而能ハ無御座候へ共、路次ヲ御引せ被為成候様ニとの御事ニ而、御馬御進上被遊候、今度大殿様御供ニ罷上候者共ニ御料理被下、其上御盃頂戴仕候、先拙者ヲ被召出御盃被下、剩御取上被為成、扱市十郎、平次右衛門、久右衛門、左五之丞、其外之者ともニ御盃被下候、是ハ則御盃持罷立候

一其以後拙者御前へ被召出、御前ニ而御小袖二頂戴仕候、其以後其外之衆ニも、呉服御羽織等それ〳〵ニ被下置候、右為御礼殿様御旅宿へ致伺公、先帰宿仕候

一今晚ハ大殿様〳〵殿様ヲ御振廻被遊候、結構成御様子共ニ而

御茶ヲも御手前ニ而被進之候、御花ヲも被遊候

一御振廻過候而大殿様被仰出候ハ、今度公方様〳〵御拝領被遊候大鷹三居之内鶴取之御鷹に而見事ニ被為思召候、是ヲ被進之候由、御意ニ而則被進之候

一右御振廻以前為御使油井半左衛門を以、御羽織、御看、葱冬酒など被進之候

一今朝御馬御上被成候儀、又今晚御鷹被進之候儀、拙者御取次被仰付候

一大殿様〳〵丹波守ニ御羽折御前ニ而被下候、半兵衛、治兵衛などニも時服被下置候

一右為御礼殿様度々御城へ御出被為成、扱今夜半時分塩時能御座候由、就夫直ニ御城ニ被為成御座、御暇乞被遊御出船之筈也

一今晚御振廻之上、大殿様、丹波守、半兵衛、治兵衛ニ御盃被下候、扱其外ハ召出ニ御酒被下候、拙者ニも御盃被下候、御様子別而過分忝仕合也

一今朝今晚両度之御茶、而殿様被召上候、御跡頂戴仕、重畳過分難有仕合とも也

一今夜半ニ殿様御出船之筈ニ而御座候へ共、御暇乞緩々と被

遊候故、八時分ニ御船ニ被為召、七時分ニ御出船被遊候、いかにも日より能御座候

一 今日大殿様ハ忝御意ニ而糟漬之鴨一桶致拜領候

同十一日

大殿様今朝五前ニ松坂御發駕被為成、御參宮被遊候、夫ハ田丸ニ御一宿可被遊との御事也

一大殿様御發駕之御、拙者儀御城へ罷上致御目見候処ニ、上海道可罷越候間、頓而紀州ニ而致御目見候様ニと忝御意ニ

而御暇被下、則五時分ニ松坂罷立、久保田ニ而休、七時分ニ坂下へ參着

同十二日

今朝夜明ニ坂下ヲ出水口ニ而休、八時分ニ草津へ參着、紀州ハ水見、京都ハ庄三郎出合咄申候

一 暮合前ニ本多兵部殿ハ為使者戸田久大夫と申仁被指越、肴三種給候

同十三日

今朝東しらミニ草津罷出、山田ハ出船唐崎之松致見物、扱坂本へ着船、夫ハ山主御宮其外參詣仕、夫ハ致当山根本中堂講堂浄土院、其外所々參詣、夫ハ小原道へ下向仕、小原

へ參、証拠之阿弥陀寂光院致見物、寂光院ニ而しバラく休、夫ハやせ通り罷越、七過ニ京着仕候

一 追付内膳殿家老とも迄、岡七郎兵衛使として指越申候、口上ハ内膳殿御堅固之由珍重ニと存候、各御無為ニ候哉、

拙者儀今度大納言殿致供罷上候、去秋中納言殿息女祝言以後見廻不申候ニ付、今度路次ハ上京仕候、明朝ニ而も明晩ニ而も内膳殿御障次第御見廻申度候間、各指頼入候由申越候処ニ、則内膳殿ハ御返事御申越候ハ、明朝ハ公用御座候間、朝五半過ニ參候様ニと御申越候

同十四日 終日雨

昨日京都へ參着仕候と、則内膳殿家老共迄案内申越候処ニ、則内膳殿ハ明朝五半過ニ參候様ニと御返事ニ候故、今朝五半過ニ參候処ニ、最早御用相済能時分ニ而、追付内膳殿御出御逢候ニ付、兩殿様ハ之御伝言の通委申達、扱緩々と御咄候而四過ニ帰宿仕候、如例箱肴一種持參仕候

一 内々今朝光君様へ伺可申と存候へ共、一条様、松平伊予守殿ハ御振廻之由、左候ハ、今晚可致伺公と何もへも申合候処ニ、今朝之御振舞今晚ニ罷成候ニ付、今日ハ延引仕、明日四時分ニ致伺公候様ニと佐治弥五兵方ハ被申越候ニ付、

今日ハ延引仕候

一 今晚私宅へ惣けんぎやう被參候、片岡藤兵、後藤四郎兵衛、同次左衛門、三井常定なども參、語り申候

同十五日

今朝四過ニ光君様へ致伺公、從兩殿様之御伝言申上、自分之御礼ヲも申上候、箱肴一種、銀子拾枚奉進上候

一 夫々御表へ致伺候処ニ、則一條様御出被為成、首尾能致

御目見御盃迄頂戴仕候、御太刀目録金馬代ニ而御礼申上候

一 右之節、先加納与次大夫長屋へ立寄、長袴着し、右御礼相勤申候

一 一條様々布施牛閑所へ參、上下ぬき、大徳寺、北野、金閣

寺、妙心寺、小室之御所見物仕候、内々嵯峨へも可參と存

候処ニ、日もばんじ、戻り候節ハ夜も少ふけ可申と存候故、

小室々罷歸候、七過ニ帰宿仕候

一 右之留主ニ、一條様々御使者として若松市之丞方被成下、

さらし五疋拝領いたし候

一 罷歸候と、則光君様々御使者として佐治弥五兵衛被成下、

過分忝御意ニ而御看、御くわし、御羽織致拝領候、右兩様

之御礼ニ、則可罷上と申候処ニ弥五兵衛申候ハ、最早日も

ばんじ、其上明朝罷立候儀ニ候間、必無用ニいたし候様ニ

と立而留申ニ付、伺其意保田主膳并御使者ニ被參候若松市之丞方、尤佐治弥五兵衛方へ以使者御礼申上候

同十六日

今朝五前ニ京都罷立、藤森へ立寄、何も供之者ヲハ伏見へ遣候、人すくなニ而六地藏通リ宇治へ參候、先六地藏致見

物、黄檗山へ參見物いたし、扨罷成儀ニ候ハ、隠元へ懸

御目度存候処ニ、能首尾ニ而則御逢候、取あへず銀子壹枚

持參、取次月たんへ金子壹分、是又取あへず遣し申候

一 夫々興聖寺、ゑしん院、平等院致見物、八過ニ伏見へ參着、

緩々と休息仕、暮合ニ致出船、夜ルの七過ニ大坂へ着船

同十七日

大坂々直ニ堺へ參、休息いたし、五時分ニ堺罷立、有とを

しなと見物いたし、八過ニ山中へ參着、一宿仕候

同十八日

今朝山中ヲ未明ニ罷立、五前ニ和歌山へ參着仕、四時分ニ

御新宅へ罷出、首尾能致御目見光君様々之御返事并板倉内

膳殿々之御請申上候、今度万事御首尾残所無御座、拙者儀

も能時分御供いたし候由、過分忝御意ニ而御のし頂戴仕候、

同性権五郎、同梅松も召連罷出候処ニ、是又其節御前へ被
召出御のし頂戴仕候、拙者儀良しバらく御前ニ罷有、昼時
分ニ退出仕候

〔表紙〕
寛文十年

五八 御用番留帳

戊ノ三月十八日ノ同七月晦日迄

留帳

三月十八日

一 今度御機嫌能御帰国被遊候、為御祝儀御肴一種指上申候
一 八時分ニ加納快遊私宅へ被參候、今度拙者儀能時分御供い
たし御太悦ニ被為思召候、頓而御いわひ御料理ヲも可被下
候間、内々此段申聞候様ニと重畳過分忝御意之由快遊被申
聞候、則御礼ニ可罷上と申候へ共、御内証之御物語之様ニ
御座候間、其段無用ニいたし候様ニと快遊指図ニ付、伺其
意平次右迄以使者申達候

大殿様先月廿八日ニ江戸御発駕被遊、当月十六日ニ和歌山
へ御着被為成候

一 八過ニ為御使田屋亀右衛門方被成下、今日御のんきニ御出
被成、御とらセ被為成候旨ニ而御鷹之ばん一つ拝領いたし
候、則為御礼罷上御用人衆迄御礼之段申達、則帰宿仕候
一 今日娘とも何も私宅へ參候ニ付、今晚幸と右御鷹之ばんひ
らき候而頂戴仕候

一 拙者儀少御跡ノ罷登候、就夫今朝未明ニ山中罷立、五前ニ
和歌山へ參着仕、四時分ニ御新宅へ罷出、首尾能致御目見、
光君様之御返事并板倉内膳殿之御請申上候、今度万事
御首尾残所無御座、拙者儀も能時分致御供候由、過分忝御
意ニ而御のし頂戴仕候、同性権五郎、梅松も召連罷出候処
ニ、是又其節御前へ被召出御のし頂戴仕候、拙者儀しハラ
く御前ニ罷有、昼時分ニ帰宿仕候

一 今度御機嫌能御帰国被遊候、為御祝儀今朝御肴一種差上申
候

一 八時分ニ加納快遊私宅へ被參候、今度拙者儀能時分致御供

御大悦ニ被為思召候、頓而御祝之御料理をも可被下候間、
内々此段申聞候様ニと重畳過分忝御意之由快遊被申聞候、
則御礼ニ可罷上と申候へ共、御内証之御物語之様ニ御座候
間、其段致無用候様ニと快遊指図ニ付、任其意平次右迄以
使者申達候

一八過ニ為御使田屋龜右衛門方被成下、今日御のんきニ御出
被成御取七被為成候旨ニ而、御鷹之ばん一つ拝領仕候、則
為御礼罷上り御用人衆迄御礼之段申達、則帰宿仕候
一今日娘共何も私宅へ参候ニ付、今晚幸と右之ばんひらき何
も頂戴仕候

同十九日

今度長福様初而御目見被遊、左京様御領地御拝領旁為御祝
儀、今日大殿様於西之御丸御能被仰付、諸士町人等ニも御
見七被成候

式三番、加茂、田村、東北、藤永、祝言^{大夫しふや}_{三郎右衛門}

一殿様分御盃台御肴御くわし御進上被遊候、拙者式も御盃台
差上申候

一今朝四前ニ右御能初り、三番過御中入御座候而、八時分ニ
相済申候、其以後御新宅へ致伺公、今日之御能首尾能相済、

日度奉存之旨御用人衆迄申達、八過ニ帰宿仕候

一帰宿以後殿様分為御使松下甚平方被成下、大殿様御機嫌弥
能御着座可被遊と御大悦ニ被為思召候、就夫拙者儀無事ニ
参着仕候哉と忝御意ニ而、御肴一折致拝領候

同廿日

今朝四過ニ御新宅へ罷出候処ニ、則致御目見良しはらく御
前ニ罷有、退出之時分雲蓋院御目見ニ被参候、様子ハ和歌
之御社人主馬吉田殿より之神道伝受之御礼、浜中長宝寺へ
殿様分寺領御附被下候御礼也、右之衆召連御出候、其段達
御耳、先僧正へ御対面しはらく御咄被為成、其上ニ而右之
者共御前へ被召出、昼時分ニ僧正御帰候、拙者儀其節も御
あいさつ申上、昼過ニ帰宿仕候

同廿一日

大殿様今朝四前ニ養珠寺へ御参詣被遊候、於妹背山養珠寺
へ拙者儀御懇ニ御意被為成候、其段布施三説承御あいさつ
申上候

一今朝養珠寺ニ而市十郎、平次右衛門、拙者ニ申聞候ハ、御
振廻ハ重而可被仰付候、先今日御手前ニ而御茶可被下之旨
御意之由被申聞候ニ付、過分忝仕合奉存候、然共恐入候間、

御免被下候様ニ御取成頼入候由申達、養珠寺今直ニ御新宅へ罷出、右之御礼申上、猶以御免被下候様ニと申上候処ニ御前へ被召出御慰ニ可被遊との御事ニ御座候間、辞退仕間敷由御直ニ御意被為成候故、とかくの段ニ及不申、則致帰宿行水仕罷上り候処ニ、先御酒可被下之旨御意之由ニ而市十郎、平次右衛門御料理被出、其上ニ而御酒数盃被下、扨御時分次第御かこいへ可致伺公と存候処ニ、又候哉御酒今少給候様ニとの御意ニ而、又御吸物出御酒被下候、其上ニて御かこいへ参候様ニと御意ニて致伺公候処ニ、御手前ニ而御茶御立被為成御前ニ被召上、扨拙者ニ被下頂戴仕、扨快遊いた、き申候

一 今日ハ雲蓋院か帯刀か可被召加哉と今朝御意之由ニ候故、過分忝仕合ニ御座候、其段ハ御免被遊快遊儀旧友ニ而御座候間、被召加かたしと市十、平次右迄申上候処ニ、其通ニ可被遊との御事ニて快遊斗被召加候

一 御茶過候而御座之間ニ而御盃被下、其上ニ而今度江戸へ之御供仕、御満足ニ被為思召之旨、種々様々過分忝御意共ニ而御指領之御腰物御指被為成、則御手を被下置奉頂戴、過分冥加至極とも可申上様無御座、又御酒被下候処ニ重而御

肴御はさみ被下、以上三盃つ、けて被下御前罷立候処、剩其盃御前へ御取上ケ被為成、重畳冥加おそろしき仕合とも身ニあまり申候

一 扨御新宅罷出、表御門を御玄関通り、市十、平次右部屋へ参、今日之御礼段々申上、それ右兩人之宿所へも参、右御礼之段申置候、扨又今日今度之御みやげと御意被為成御立之物女共ニ被下置候ニ付、此御礼をも右兩人之宿所ニ而申置、七時分ニ帰宿仕候

一 今朝養珠寺へ参候ニ付、如例年頭為祝儀銀子壹枚持参申候

一 明日瀬戸へ被為成候ニ付、今夜八時分ニ御出船被遊筈之由、御用人衆を被申聞候ニ付、夜半過ニ御新宅へ罷出、出御之時分致御目見今日之御礼をも申上、又候哉忝御意ニ而首尾能七過ニ帰宿仕候

同廿二日

今朝七過ニ瀬戸へ御出船被遊候

一 拙者儀今朝六半時分ニ宿罷出、坂田へ致参詣、夫を岡野平太気色見廻ニ立寄、四前ニ帰宿仕候

一 今度江戸ニ而求候広沢之茶入、少もはやく見申度由、先日分布施三説被申候ニ付、今晚私宅へ招請申、右茶入をも見

セ申候、正木五郎右衛門、小笠原与左衛門、菅沼喜右衛門、
鶴飼海安、三岡水見呼申候、加納角兵も参か、り被申候、
永庵、次兵衛、七右衛門をも呼申候、三説八時分ニ被参、
暮合ニ被罷帰候

一昨日御腰物致拝領候ニ付、今日ハ能時分之振廻ニて、何れ
も酒をものミ被申、緩々と祝被申候

同廿三日

今度拙者儀首尾能御供相勤、其上一昨日重疊過分忝仕合共
ニ付、今晚娘共呼寄振廻祝申候

同廿四日

今朝五時分ニ和歌へ致伺公、御橋之辺ニ而奉拝、夫分大師
堂へ致参詣候、但如例銀子壹枚献上、さて雲蓋院へ参旁礼
共をも申候、年頭ニ候故如例銀子壹枚持参、其外五ヶ坊衆
神主兵部へも如例祝儀物遣し候

一それ分大智寺、要行寺へ致参詣候、是又銀子壹枚つ、持参
一それ分吹上下屋敷へ立寄上下ぬぎ候て、長田権十屋敷ニ佐
平太、平作被有之候由ニ付見廻、権十儀申出候、少之間語、
それ分吉見喜左衛門病氣見廻、それ分菅沼喜右方風氣見廻
候て、昼前ニ帰宿仕候

同廿五日 夜ニ入雨

今朝蓮心寺へ致参詣候、如例年頭為祝儀銀子壹枚持参

同廿六日 昼前ニ少雨

およめ疱瘡仕廻、昨日酒湯懸り候ニ付、今朝為祝儀くきや
う院およめ角藏方へ看遣し候、扨昼前ニ見廻候而、それ分
同名新十郎所へ見廻、真鍋五郎右衛門留守見廻、それ分吹
上下屋敷へ立寄、海安、水見被参、緩々と語、暮合ニ帰宿

同廿七日

今昼時分ニ帯刀方、水野平右方、小笠原与左へ見廻、夫分
宇治屋敷へ参、夫分じや光院、渡部一学方留守、正木五郎
右衛門所へ見廻、帰宅

同廿八日

今朝東白ミニ宿罷出、鷹場へ参候、長山芦池ニばん二つ有
之を二つ共ニ取らせ、其外鳥も無之候故、上野山屋敷ニて
緩々と休候、海安、水見被参候、永庵も参候、七前ニしや
くかはな分舟ニ而下り、帯刀方下屋敷之少上ニて上り、夜
ノ五過ニ帰宿、権五郎、梅松をも召連候

同廿九日 夜ニ入雨

終日宿ニ有之、替事なし

四月朔日 朝五過迄雨、其後も時々雨

今朝ハ於中書院何も礼衆ニ逢申候

同二日

今朝了法寺へ致参詣、晩ニハ了法寺を振廻申候、淨福寺相客也

同三日

左京様へ先月廿五日首尾能御暇出申候由、今日申来

同四日

今八時分ニ大井勘九郎御用ノ御書付被致持参候、就夫御請認、七過ニ勘九方へ持参相渡、追付帰宿

同五日

今晚加納快遊振廻申候、平次右、九十、孫惣、与左衛門、水見、海安相客也、八時分ニ被参、夜ノ五過ニ帰被申候

同六日

今晚大学呼候て、馬共見申候、三五郎、七三郎参馬共乘申候、以上十五疋也、八時分夕暮合迄見候而、夜ノ五時分ニ大学帰被申候

同七日

今昼過ニ磯脇へ見廻申候、真鍋五郎右衛門申合参候、夜ノ五前ニ帰宿

同八日

今日吉日故友之助はかま着初申候、就夫四時分ニ宇治屋敷へ参、日暮候而帰宿、右為祝義友之助ニ片山一文字之刀とら七候、宇治娘ニも為祝儀樽代遣候

同九日

昨日之為礼今日宇治娘、友之助私宅へ参候

同十日

大殿様今八過ニ瀬戸ノ御帰館被遊候、御着前ノ御新宅へ罷出、入御之節首尾能致御目見、其以後御前へ被召出、御機嫌能御咄被遊候、御あいさつ申上、七時分ニ帰宿仕候

同十一日 朝四前ノ夜ノ四時分迄雨

大殿様今朝五過ニ和歌雲蓋院へ被為成候由、拙者儀今朝権五郎、梅松召連罷出候処ニ、はや出御被遊候故御帰館迄御新宅ニ罷有、被為入候刻首尾能致御目見、扱御座之間へ七かれ召連被召出、忝御意ニ而、昼時分ニ帰宿仕候
一御米姫様御祝言当月五日首尾能相濟候由、今晚江戸ノ申来其段達御耳、拙者儀別而目出度可奉存候間、早々申聞候様

ニと御意之由、丹羽郷左、大井勘九ハ夜ノ五過ニ被申越候、夜中故先右所迄以使者御礼申上候

一内々杉田市郎左私宅へ見廻被申度由ニ而、山口宗休、飯嶋五郎右、鶴飼海安、狩野奥甫被申合、八時分ニ被參緩々と咄、夜半時分ニ帰被申候

同十二日

今朝五過ニ御新宅へ罷出、昨晚御意之御礼勘九迄申上候処ニ、則達御耳別而目出度可奉存候、幸雲蓋院も被罷出候間、御酒給候様ニとの御意にて、雲蓋院へも御酒進、拙者も相伴仕候

一殿様ハ右為御祝儀御看一種御進上被遊候、御使渥美源五郎相勤申候、其節御前へ拙者など罷出御あいさつ申上候
一其以後御前へ雲蓋院被罷出良しハらく御咄被遊候、其節も御前ニ罷有御あいさつ申上、雲蓋院退出以後、昼前ニ帰宿仕候

一右為御祝儀拙者并女共も御看一種つ、指上申候、御新宅ハ久野丹州留守見廻申候、又去頃私宅へ丹州見廻被申、セかれ方へも度々使給候礼なと申置候

同十三日

今度米姫様御祝言首尾能相済申候ニ付、不取敢先今日御祝可被成候間、拙者共昼時分ニ罷出候様ニとの儀ニ而、昼前ニ何も御新宅へ罷出候処ニ、御能被仰付御料理被下御前ニ而御酒頂戴仕候、権五郎、梅松ニも見物致さ七候様ニと御意ニ而罷出見物仕候、御能ハ養老、張良、はせを、橋弁慶、祝言、右之内次郎吉様御所望ニ而舟弁慶被仰付候、七過ニ御能相済何も退出仕候、拙者義御用御座候而相残申候処ニ、晩方牡若之御能御座候

同十四日 夜ニ入雨

大殿様へ今日初而彦兵衛致御目見候、四時分ニ罷出候処ニ、則御前へ被召出御のし被下、其上御脇指頂戴仕過分忝仕合也、御脇指ハ則国代金三枚五両也、拙者義五過ハ罷出、右之御礼申上候、帯刀ハ則彦兵衛召連退出仕候、拙者ハ御新宅ニ罷有、檜川半入中庸誦申候を承、昼時分ニ帰宿仕候
一昼過ニ帯刀、彦兵衛同道ニ而私宅へ被參候、太刀目録彦兵衛持參、其前ニ帯刀方へ以使者、帯刀、彦兵衛奥へも看遣候

一今晚水野平右殿へ振廻ニ參候、是ハ今度平右方年寄役被仰付候祝儀也、八過ニ參、七過ニ帰宿仕候、盃台出ル

一右為祝義私宅へも申請度由、則今晚約束申候処ニ、来廿六日之晚可被參由、平右殿父子、了二、三悦、梅溪、志賀、弥三左、中川七左、水野十兵、天方四郎三、竹本藤兵、水野理左、神谷九左、中村四郎左、前田源八方など相客、又ハ勝手者也、右何も廿六日ニ御出候様ニと約束仕候

同十五日 朝夜明ニ少地震

今朝四前ニ御新宅へ罷出、如例御座之間ニ而首尾能致御目見、良しハらく御前ニ罷有、昼前ニ退出仕候、其節菅沼喜右衛門所へ立寄、夫々帯刀所へ參、昨日彦兵衛首尾能致御目見候祝儀申談、昼過ニ帰宿仕候

同十六日

今朝四前ニ御新宅へ罷出候処ニ、伯州様御祝言当月八日首尾能相濟候由、只今申来候由承候ニ付、則御祝儀申上候処ニ、御機嫌之御事ニ而、頓而御座之間へ被召出、御大悦之旨御意御座候ニ付、重畳目出度奉存之旨御あいさつ申上、其外良しハらく御咄被遊候、未誰も不罷出拙者迄御前へ罷出候、退出以後くきやう院娘なつ庖瘡いたし候ニ付、見廻帰宿

同十七日

大殿様今朝五前ニ和歌雲蓋院迄被為成候、御約束御かりきぬニ而御參宮被遊候、御宮ニ而之御作法如例拙者義大もんに御供仕候様ニと被仰付相勤申候

一殿様御名代安藤帯刀相勤申候

一御宮分竹本丹後屋敷へ被為成、それ分浜通り御かり屋へ被為入、御祭礼御拜被遊候

御輿御旅所分御帰前ニ大殿様御かり屋を御出御帰館被遊候、拙者共御跡分御新宅へ致伺公、今日之御祭礼首尾能相濟、乍恐目出度奉存之旨御用人衆へ申達、八半時分ニ帰宿仕候

同十八日

今度伯州様御祝言首尾能相濟申候ニ付、不取敢先今日御祝可被成候間、拙者共四過ニ罷出候様ニとの儀ニ而四前ニ罷出候処ニ、御能被仰付御料理被下、御前ニ而ハ今度中納言様於江戸御拝領被遊候御鷹之ばん御すそわけとして被進候を今日御ひらき御頂戴被遊、拙者式ニも御いた、かセ被成候、扱御酒被下候、権五郎、梅松ニも御能見物致させ候様ニと御意ニ而罷出見物仕候、御能ハ、養老、羅生門、羽衣、皇帝、祝言

七過ニ御能相濟何も退出仕候、拙者儀御用御坐候而相残り

申候処ニ、晩方源氏供養之御能御座候

同十九日

今朝四時分ニ御新宅へ罷出、頓而致御目見良しハらく御前

ニ罷有、昼前ニ帰宿仕候

一夜半前ニミなどふく町柘植忠三郎家火事出来、然共少之

儀ニ而早速もみけし申候、就夫御新宅へ罷出候処ニ、達御

耳最早火も消候間、罷帰候様ニと忝御意ニ而、追付帰宿仕

候

同廿日 夜ニ入雨

大殿様今朝五過ニ和歌御霊屋へ御参詣被遊候、御長袴也

一殿様御代参水野平右衛門長はかまニ而相勤申候、但帯刀相

煩候由、今朝平右衛門方へ申越候ニ付而也

一拙者儀今朝六半時分ニ雲蓋院迄致伺公、御参詣之節御供相

勤、四時分ニ帰宿仕候

同廿一日 終日時々雨

大殿様昨晚少御口中御痛被為成候ニ付、今日ハ養珠寺へ

御参詣不被遊、為御代参原田市十郎御上被為成候、拙者儀

今朝六半時分ニ養珠寺へ致伺公、市十郎御代参相勤候以後

御はいせんいも七山奉拝、四前ニ致帰宿、追付御新宅へ罷

出、御機嫌奉伺候処ニ、頓而御前へ被召出しハらく御咄被
遊候、御あいさつ申上、昼前ニ帰宿仕候

同廿二日 七過分雨

今朝四前ニ罷出、御機嫌奉伺候処ニ、御前へ被召出良しハ

らく罷有候、御口中御痛も昨日ハ被為和候由御意ニ而、

昼過ニ帰宿仕候

同廿三日 終日少つ、雨

今朝四前ニ罷出、御機嫌奉伺候処、追付御前へ被召出しバ

らく罷有、御咄之御あいさつ申上候、夜前ハ少御口中御痛

被為成候へ共、今朝ハ被為和候由御意ニ御座候、頓而御新

宅罷出、松平三郎兵へ見廻、夫今岡野平太へ見廻、良しバ

らく語り候而、昼過ニ帰宿仕候

同廿四日 終日雨

大殿様御口中御痛未透と無御座候故、今朝大知寺へ之御参

詣御延引被遊、為御代参伊達源左衛門御上ケ被為成候、拙

者儀其節大知寺へ致伺公、夫今養行寺へ参詣仕、五過ニ帰

宿仕候

一四時分ニ御新宅へ罷出候処ニ、追付御前へ被召出御機嫌奉

伺候処ニ、御口中御痛も被為和候由御意御座候而、しバラ

く御前ニ罷有、昼前ニ帰宿仕候

同廿五日 終日時々少つ、雨

今朝四前ニ御新宅へ罷出候処ニ、頓而御前へ被召出、御目見仕候

一米姫様今度御祝言相濟候、為御祝儀御松姫様分御樽肴被進之候ニ付、今朝御披キ被為成、御前ニ御祝被為成、拙者式ニも右之御肴御酒御前ニ而被下頂戴仕、御祝儀申上何も退出仕候、拙者儀ハ少御用御座候而しハらく御前ニ罷有、昼過ニ帰宿仕候

同廿六日 昼前ニ少雨

今朝四前ニ罷出候処ニ、頓而御前へ被召出、良しハらく御咄之御あいさつ申上、其以後粉川之ゑんぎなど御見せ被成、昼時分ニ帰宿仕候

一今晚水野平右殿父子私宅ニ而振廻申候、了二、三説、志賀、弥三左、中川七左、神谷九左、竹本茂兵相客也、三説、弥三左、七左、茂兵などハ跡ニ相残被申、夜ニ入五過迄咄歸り被申候

同廿七日

今朝四時分ニ罷出候処ニ頓而御前へ被召出、しハらく御咄

之御あいさつ申上、昼時分ニ帰宿仕候

同廿八日 八過迄雨

今朝岩手へ可被為成との御事ニ付、六半前ニ罷出候、併夜中ハ大雨故、今日ハ御延引被遊候、拙者頓而御前へ被召出、今日之御祝儀申上、しバラく御咄之御あいさつ申上候処ニ、右之通今日ハ御延引可被遊候間、何も罷帰候様ニと被仰出、五過ニ帰宿仕候

一今昼時分ニ朝比奈惣左衛門風呂屋火たき所ハ火事出来いたし候ハんと仕候へ共、早速もミけし申候、右火事と承候ニ付、御新宅へ罷出候、其段達御耳忝御意ニ而御新宅罷出候一菅沼喜右衛門吹上之家出来頃移り申候ニ付、為祝儀権五郎、梅松致同道參、益こといたし八時分ニ帰宿仕候、喜右衛門同奥へも肴樽代持參申候、権五郎、梅松も肴持參仕候

同廿九日 終日時々小雨

大殿様今朝五時分岩手へ被為成候、拙者儀今朝六半前ニ罷出、出御之時分首尾能致御目見、五過ニ帰宿仕候

同晦日

今日ハ終日宿ニ有之、替事なし

五月朔日

大殿様昨日陽山へ被為成候由、左京大夫様今日陽山へ御着之由承候ニ付、各迄以飛札大殿様、左京大夫様へ右為御祝儀御肴一種つ、指上申候

一次郎吉様へ当節句之御甲、今日始而指上ケ申候、志賀弥三左迄指越首尾能披露被致給候、帯刀も同前也、拙者儀今朝五過分表へ罷出、今日之礼衆ニ逢申候

一菅沼九兵陽山迄御供被致、今晚夜ニ入帰宿、就夫則九兵へ見廻逢候而早速罷帰候

同二日

今朝六半時分ニ罷出、坂田へ參詣仕候、住寺振廻被申候、今度入院始而之振廻ニ候故卷物持參申候、当住寺ハ先かん坊ニ而直ニ住寺成被致候故、急度祝儀物も不致候故幸と存、今日之振廻ニ卷物遣し申候

一昨日陽山へ市十、平次右被參昨晩帰宿之由、就夫大殿様分忝御意之段、今日私宅へ被參被申置候ニ付、則坂田分直ニ右両所へ御礼ニ參候

一左京様分も昨日陽山へ御着ニ付、鈴木忠左衛門方を以忝御意御座候ニ付、是又右之通鈴木四郎兵へ參、御礼申上候、

忠左へも使遣し申候、拙者儀右之通仕廻候而、昼過ニ帰宿仕候

同三日

今八時分ニ九兵、半之助方同道ニ而私宅へ被參候、取あへず料理出し、緩々と語り、扱奥へ返し女共始而逢申候、盃こといたし、扱頓而表へ出被申、七半過ニ歸り被申候

同四日

端午之為御祝儀如例今日陽山へ御肴一種指上申候、御用人衆迄以飛札申達候

同五日

昨夜八時分ニ宿罷出陽山へ致伺公候、岩手ニ而夜明六半時分ニ粉川へ參着仕候、左京大夫様今度御上被為成候へ共、未御目見不仕候ニ付、先粉川御殿へ罷出、左京様へ致御目見御のし頂戴仕、夫分陽山へ致參上、追付左京様御出被成、御対顔之節致御目見御のし頂戴仕候

一殿様分今日之御祝儀為御使水野平右衛門を以御樽肴御進上被遊候、追付御返事被仰聞平右衛門退出仕候

一今日左京様ヲ御振廻被遊候、先ちまき御祝被為成、御盃と御座候而、四過ニ先御退出被遊、昼時分ニ亦陽山へ御出

被為成候、高砂之御能相濟御振廻出ル、但御座布之内御かこひ被為成、それニ而御振廻御座候、松之助、拙者御相伴被仰付候、御懸物俊成、御花入、御茶入、御茶わん、其外何も新キ御道具也、御中立以後御花被遊、御茶ヲも大殿様御手前ニ而被進之候

一 御茶過候而、田村、ばせを、七騎落、祝言以上御能五番也、御能之内又御盃出候而何もニ御酒被下候、松之助、拙者ニハ御盃被下頂戴仕候、扱其内大御酒被下、御前ニ而うたい申、殊外給醉申候

一 左京様今日之御馳走忝被為思召之旨、くれく御意ニ而殊外之御機嫌也、左京様ニも松之助、拙者ニ御盃被下候、暮合ニ左京様御退出被遊候

大殿様御機嫌不大形、則拙者式ニも御暇被下候、其御次而ニ拙者儀鷹場へ之御暇申上、直ニ岸へ参一宿仕候

同六日

大殿様、左京様今七過ニ和歌山へ被為人候、拙者儀暮合ニ帰宿仕候故、御着之時分ハ不罷出、御用人衆菅沼九兵迄以使者申達候

同七日

左京様昨日被為人候へ共、拙者儀ハ不罷出候ニ付、今朝五過ニ権五郎、梅松召連西之御丸へ罷出候処ニ早御新宅へ被成御座候ニ付、直ニ悴共召連御新宅へ罷出候処ニ、左京様御対顔之節、拙者儀致御目見悴共も致御目見候処ニ、忝御意ニ而退出仕候、左京様へも御新宅ニ而悴共も御目見いたし候

一 昼過ニ御新宅分被為召候ニ付罷上候処ニ、別而御用も無御座候、今日ハ先年於大坂御合戦御勝利之日ニ而御座候、就夫定環儀被思召出候故、御咄可被遊との儀迄ニ而御座候とて緩々と御咄被遊、定環儀種々様々過分忝御意ともニ而御盃被下、身ニあまり候仕合かんるいヲなかし申候、其節市十郎、平次右衛門ヲも被召出御咄御聞せ被為成候

同八日 夜ニ入雨

昨日御咄之御次而ニ、日心様分定環ニ被成下候御書、左京様へ懸御目候様ニ、梅溪、一陽ニも拝見致させ可申之旨御意ニ御座候ニ付、先昨晚九兵衛ニ様子物語仕、今朝四時分ニ九兵衛致同道、西之御丸へ右之御書持参仕候処ニ、早速左京様御前へ被召出、右之御書御拝見被為成忝御意とも、其上右之段御満足被遊候由、為御使者伊達庄八方私宅へ被

成下候

一西之御丸今直ニ御新宅へ罷出候、大殿様ニハ今朝和歌へ被成御座、昼過ニ御帰館被遊候、其節致御目見候、左京様ニも御新宅ニ被成御座候故直ニ御对面被遊、今朝右之御書御拝見被遊候由、大殿様へ被仰上候、其節拙者も御前ニ罷有候、大殿様御意ニハ、右之御書ハ取あへず被遣候故有増之御文言ニ而候、大御所様結構成御意ともニ御座候との御あいさつニ而、弥以過分難有仕合ニ而退出仕候

一今晚梅溪、一陽私宅へ呼候而、右之御書拝見致させ候処ニ、手前之留書ニのセ可申由申候而、則右之御書写持参仕候

同九日 四時分迄雨

今朝御出船被遊、広へ可被成御座との御事ニ而、六半時分ニ御新宅へ罷出候処ニ雨降、其上波も高ク可有之由申ニ付御延引被遊候、拙者儀追付致御目見しバラく御前ニ罷有、五過ニ帰宿仕候、然所ニ天氣も上り申候ニ付、俄ニ昼前ニ和歌迄被成御座、かたを波分御出船被遊候、其節ハ御新宅へ拙者ハ不罷出候

同十日 終日雨、夜ニ入候迄降

如院様へ御進上可被遊哉との御硯箱御文台月日かいなど致

拝見候様ことの御意ニ而、今朝四時分ニ御新宅へ罷上、右之御道具とも致拝見、昼前ニ帰宿仕候

一今晚娘とも当節句之為礼私宅へ参候而、日暮候而何も帰し申候

同十一日

終日宿ニ有之、替事なし

同十二日

帯刀方へ久布見廻不申候ニ付、今七時分ニ見廻、夫今くきやう院所へ見廻、日之入前ニ帰宿

同十三日

去節句御法度之ざれゑかきし紙のほり立申候者共、何も過料ニ相定り候、左候へハ帯刀、拙者ものともニも有之候間、我等共手前へ過料取候様ことの儀ニ有之由、去九日御目付衆正木五郎右衛門所へ被参被申候由、其節ハ五郎右衛門留主ニ而候故被申置、委細ハ志賀弥三左被存之由ニ付而、五郎右衛門私宅へ参申候候ニ付、拙者あいさつニ右過料之段御尤至極ニ候、左候へハ御直之衆ハ何も過料御目付衆へ出し被申候処ニ、拙者共儀ハ各別ニ候間、家人之過料手前へ取置候様ことの儀、先以何も被入御念儀ニ御座候、然共手

前之仕置迄ニ御座候ハ、いか様ニも可仕候へ共、是ハ公儀
之御法度ヲ相背、其上目付衆ニ被改候上ハ、拙者共御目付
衆迄過料出し申度由申越候処ニ、尤の儀ニ候へ共、何も相
談之上ニ而帶刀ニも其段申聞候間、右之通ニ可然由あいさ
つ被申候間、翌日為使小林左次兵衛を以弥三左へ申越候者、
五郎右衛門ニも被申達候、弥拙者共も御目付衆迄過料出シ
可申候様子ハ、右之通ニ有之由品々申越候処ニ、尚以兎角
最前之通ニいたし候様ニ、何も之過料之員数も相定り不申
候、明後日之寄合ニ極り可申由之返事也

一 十一日之寄合ニ知行取之衆ハ銀壹枚、御切米取ハ金貳分、
与力ハ金壹分、同心足輕ハ代物五百文ニ相極り候由、帶刀
も右之段弥三左へ申談候へ共、とかく右之通ニとの被申様
ニ候故、先とかくヲ不相極候由帶刀方分申越候ニ付、十二
日ニ飯嶋五郎右へ相談申候ハ、右弥三左被申様我等共為ニ
ハ結構成様ニ候へ共、公儀之御法度ヲ相背目付衆ニ被改候
処ニ我等共斗何も御申候として手前へ過料取置候ハ、重而
人之批判も可有之哉と存候、第一御法度之立候様ニ致候が
拙者共役ニ而御座候、又ハ自分ニ人之批判も請不申様ニと
存候、いか、可有之哉と相談申候処、委細被得其意候間、

少弥三左へも様子可承とて、帰り被申候

一 明ル十三日之朝五郎右私宅へ被參、昨日之通段々弥三左へ
物語仕候処ニ、一々尤ニ被存候、併原田市十、加納平次右
共前方相談仕、又頃度々拙者共方分申越候、念の通ヲも市
十、平次右とも相談仕候へ共、弥右之通此度之儀ハ、先拙
者方へ過料取置候様ニ市十、平次右心得斗之様ニも無之様
ニ被申候由ニ候、左候へハ此上ハ可申様無之候間、其通ニ
可仕由、五郎右へもあいさつ仕、帶刀とも致相談、岡田利
左衛門、小林左次兵衛兩人一所ニ弥三左へ指越申候、口上
ハ

一 同性源右衛門召仕候者、去節旬御法度之紙のほり立申候ニ
付、過料之儀飯嶋五郎右殿と相談申候通御聞候而、委御物
語之趣五郎右殿被申聞得其意存候、拙者共度々申進候通原
田市十、加納平次右とも御相談候而之上被仰越候由、殊市
十、平次右心得斗之様ニも無之様ニ被仰聞候上ハ、兎角ヲ
可申様無之候間、御指図之通ニ我等共手前へ過料取可申候、
左様御心得可被成候、頃ハ度々御六ヶ布儀申進可為御迷惑
と察入申候、為其以使者申達候

一 弥三左分之返事ニ被人御念御使者忝奉存候、飯嶋五郎右ニ

物語仕候通御聞被成最前分申達候通ニ過料之儀、御手前へ御取置可被成由得其意御尤ニ奉存候、被入御念之通市十、平次右へ物語可仕候、何様懸御目可得御意候由

一則源右衛門方へ左次兵衛ヲ遣し不念故、ケ様之儀仕出し候との段々委源右衛門ニ申聞、則過料代物五百文出さセ申候、帯刀内ニハ一人ハ同心、一人ハ歩行之者之由、右両人方分代物五百文つ、過料取申候由

同十四日 時々雨

今朝志賀弥三左へ帯刀、拙者方分岡田利左衛門、小林左次兵衛使ニ指越申候、口上ハ昨日以使者申達候処ニ、委細御返事ニ御申聞忝存候、弥御指図之通ニ過料手前へ取置申候、左様ニ候へハ、此度之儀定而御目付中分江戸へ可被申上候、脇々も被申上儀も可有御座候、左候へハ、帯刀拙者方分江戸ニ御入候衆迄迷惑仕候段申達候而ハ、如何可有御座候ハん哉、為御相談以使者申入候

一弥三左分之返事ニ被入御念御使者忝存候、被仰越候通此度之儀定而御目付中分も被申越ニ而可有御座候、何も分も申參儀も可有御座候、就夫帯刀殿御手前分も可被仰遣候哉、為御相談被仰聞候との儀得其意存候、再三被入御念儀ニ御

座候間、被仰越候而も可然御座候ハん哉と存候、何様懸御目可申之由返事也

一其以後弥三左私宅へ被參被申置候ハ、去節句のほり之儀ニ付頃ハ為御使節々左次兵衛被下候、昨日も今朝も左次兵衛御越被入御念之通委細承届候、私躰御あいさつ申候通も、江戸へ可申遣候由也

一今晚菅沼九兵、飯嶋五郎右振廻申候、喜右ヲもよび申候、海安、水見勝手者也、助作ヲも勝手へ呼申候、何も八時分ニ被參、ゆるくと咄、夜半過ニ歸り被申候

同十五日

今朝ハ表へ罷出、何も礼衆ニ逢申候
一今日ハ吉日故、権五郎着初之具足誂申候
一鈴木善兵衛、大多和三之助縁組申付候

同十六日

大殿様御機嫌能、今八過ニ広分御船ニ而被為入候、左京大夫様も直ニ御新宅へ御供被遊候、拙者共八時分罷出、首尾能致御目見、シハらく御前ニ罷有、扱左京様被成御座候西之御丸へも致伺公御悅申上、七前ニ帰宿仕候

同十七日

大殿様今朝四前ニ和歌御宮へ御参詣被遊、雲蓋院にてしらく御咄被為成、昼前ニ御帰館被遊候、左京様御同道也、拙者式今朝五前ニ雲蓋院迄致伺公右御供相勤、御跡分帰宿仕候

同十八日

大殿様今朝五時分ニ塩津へ被為成候、就夫今朝六半時分ニ罷出、出御之時分首尾能致御目見、追付帰宿仕候
一字治屋敷ニ少用所有之ニ付、今昼前ニ罷越、夜ニ入六半時分ニ帰宿

同十九日

今朝左京大夫様へ彦兵衛始而致御目見候ニ付、拙者儀四前ニ西の御丸へ罷出候処ニ、追付左京様御出被為成、拙者儀致御目見しはらく御前ニ罷有候内、帯刀、彦兵衛同道仕罷出候、則太刀目録ニ而彦兵衛御礼申上、御のし頂戴退出仕候、拙者儀夫分御新宅へ罷出候
一追付左京様御新宅へ御出被為成、頓而御対面被遊候、其御跡ニ致御目見しはらく御前ニ罷有候
一昼前ニ御新宅罷出、吹上之屋布へ参候、是ハおいとこり相煩候ニ付見廻、夫分斎藤源藏病氣見廻候而、昼過ニ帰宿

仕候

一今晚片岡藤兵衛返廻申候、水見斗相客也、八時分ニ被参、暮合ニ被罷帰候

一夜ニ入左京様分爲御使者浅井仁兵方被成下候、御口上ハ来廿二日ニ大殿様へ御膳御上り被為成候間、拙者式ニも御勝手へ致伺公候様ニとの御意也、則爲御礼西之御丸へ罷上、御用人衆迄御礼申上、則帰宿仕候

同廿日

大殿様今朝五過ニ和歌御霊屋へ御参詣被遊候、拙者儀頃少種物氣ニ而乗物ニのり候儀不自由ニ御座候ニ付、今日ハ爲養生不罷出候

同廿一日

大殿様今朝五過ニ養珠寺へ御参詣被遊、夫分いもせ山へ御参詣被為成、御船ニ而ゑんどう分御上被為成御帰館被遊候、拙者儀今朝六半時分ニ養珠寺へ致伺公、右御参詣之御供相勤、四過ニ帰宿仕候

同廿二日

大殿様へ左京様於御新宅御膳御上り被為成候、今朝四過ニ先御のし出、扱御能初ル、加茂、田村、江口相濟御申入、

扱御振廻出ル、左京様御長袴ニ而御配膳被遊候、御盃之上ニ而代金拾枚、來国光之御腰物左京様御進上被遊候、拙者儀持罷出候様ニと大殿様御意ニ付拙者儀持罷出指上申候、扱御振廻過御かこいニ而御茶御上り被為成候、御懸物しわんせき、御花入青地かぶらなし、御茶入大坂片付、御茶わん大かうらい也、小西之御壺之口今朝被為切御茶御上被為成候、尤左京様御手前也、大殿様被召上左京様へ被進、其御跡拙者頂戴仕、了二いたゞき申候、帯刀ハ少かい痛申候ニ付、御茶わん拜見之為迄ニ被召出、御茶ヲも少被下候、扱御茶過御吸物出、御盃之上ニ而御指領左文字御腰物左京様へ被進之候、扱御能初ル、セがい、難波、遊行柳、祝言、以上七番也、日ノ入合前ニ相濟、左京様御退出被遊、又御礼ニ御出被為成、市十郎、平次右衛門ニ御礼被仰達、則御帰被為成候、拙者儀今朝前ニ罷出、則致御目見御前ニシバラく罷有、右御振廻之内御あいさつ申上候、御勝手ニ而御料理被下候、御汁ハ殿様分被進候御鷹之鶴也、扱御前ニ而御酒被下候、其以後左京様御盃ニ而御酒被下、御能之内も度々御酒被下、殊外給酔御新宅罷出西之御丸へ致伺公、今日之御祝儀又御料理被下候御礼等御当番衆ニ申達御帳ニ付、

日入合ニ帰宿仕候

一 帯刀平右衛門ハ今日寄合日故、田村之御能相濟候而、会所分直ニ御新宅へ罷出候

一 加茂之御能初り候而、権五郎、梅松ニハ能見物致させ候様ニと大殿様御意ニ而則よびよ七、田村、江口之御能見物致させ、扱宿へ返し申候

同廿三日

昨終日御新宅ニ相詰、あなたこなたといたし候故、今日ハ種物ひきはり立居不自由ニ御座候ニ付、今日ハ不罷出候

一 江戸分久々の約束ニ而今晚市十、平次右、源左、四郎兵、

大郎八、左五、郷左、八太、丹波など振廻申候、是ハ今度

大殿様万事御首尾能御帰国被遊、左京様ニも御仕合能御上り被為成候旁御祝儀之心也、就夫役者ヲも四五人よび候而

うたわセ申候、何も八時分ニ被參、夜ニ入四過ニ歸り被申

候

同廿四日 八前ニ少雨

大殿様今朝大知寺へ御參詣被遊候、御帰ニ養行寺へも被為寄候由、拙者儀種物故行歩不自由ニ付、今朝御供ニハ不罷出、御帰館前ニ御新宅へ罷出被為入候節首尾能致御目見、

其以後又被召出良しはらく御前ニ罷有、四過ニ帰宿仕候

同廿五日

拙者儀種物未爾と無之候へ共、久々之約束ニ而雲蓋院今晚
私宅へ申請候故、旁今日ハ不罷出候

一今八時分雲蓋院私宅へ御出緩々と御咄、夜ニ入五過ニ御帰

候、布施三説、菅沼九兵、飯嶋五郎右相伴ニよび申候、利
生坊御つれ之了法寺ヲもよび申候、海安、与左勝手者也、
永庵子共よび候而少つ、舞せ申候

同廿六日

今朝四時分ニ罷出候処ニ、頓而致御目見良しはらく御前ニ
罷有、昼時分ニ退出仕、直ニ吹上下屋布へ參、池ノうまり
候ヲさらゑさせ、日入合ニ帰宿

同廿七日

大殿様今朝六半時分ニ出御被遊、西之御丸へ被為寄、夫
陽山へ被為成候、左京様ニも追付御跡を被成御座候、拙者
儀今朝卯ノ刻ニ御新宅へ罷出、出御之節首尾能致御目見、
夫御先ニ西之御丸へ致伺公御あいさつ申上、扱御駕ニ被
為召候節、忝御意ニ而帰宿仕候

一今晚布施三説へ茶湯ニ參候、菅沼九兵、飯嶋五郎右、鶴飼

海安相客也、八時分ニ參、七半時分ニ帰宿仕候、道具ハ懸

物宗祇、花入備前之かけ花入、茶入瀬戸中古片付立ニ筋十二三

ほと有之、洪合善ハ參候由、茶わんかうらいいとて、茶杓
遠州、釜あられ四方、但四つノかと二筋有、せいたかし、水指雪

山と名有之由、香箱新渡せきれい染付、但たき物斗

同廿八日

今朝五過ニ表へ罷出、何も礼衆ニ逢申候

一今晚松野大学よび候而、馬共見申候、三五郎、七三郎ニの

セ申候、水見、永庵あいさつニよび申候

一今晚権五郎、梅松ニも馬のセ申候、尤大学鞍なをし被申候、

梅松ハ始而之乗初也

同廿九日 時々雨

今朝四時分ニくきやう院所へ參候、是ハおこま痲瘡首尾能

仕廻候ニ付而也、夫岡野平太へ見廻、夫加納快遊へ見
廻、夫菅沼喜右所へ參、夫吹上下屋布へ參、池なとさ

らゑさせ、扱娘方へも立寄、七過ニ帰宿

六月朔日

今朝五過を表へ罷出、何も礼衆ニ逢申候

同二日

今朝日出時分坂田へ参、五過ニ帰宿仕候

同三日 四過今夜ニ入候迄雨風

宇治之娘、友之助久々ニ而今日参候

同四日 四時分暮合迄時々雨

今日ハ伝教大師御証月故、今朝五過ニ宿罷出雲蓋院へ参詣

仕候、其節御法事移り候節ニ而相濟候迄ちやうもんいたし、

扱焼香仕奉拜、其以後奥之座布へ罷通り切麦など出、其上

茶給昼前ニ罷立、吹上下屋敷へ立寄、夫々菅沼九兵へ見廻、

昼過ニ帰宿仕候

一大殿様今晚御帰館之由八過ニ承候ニ付、夫々とくと承合、

七半時分ニ御新宅へ罷出候処ニ、暮合ニ御機嫌能被為入、

首尾能致御目見、しはらく御前ニ罷有、夜ニ入御新宅罷出、

左京様へ致伺公御機嫌能被為入候、御祝儀申上、六半時分

ニ帰宿仕候

同五日 八過分暮合迄雨、夜の内も降

今朝日出時分福岡太郎八方へ茶湯ニ参候、菅沼九兵、鵜飼

海安相客也、懸物米元章、花入竹ノ筒宗且作、延暦寺卜付

候由、茶入利休なつめ、袋金らんもへき地ニうさきニ

かへりの木所々ニ有、茶わん染付之もんと、茶杓宗且作

第一と付候由、釜音屋ノ由羽下へさかり付、水指備前りうこなり、

香箱やき物なんばん物か、伽羅龍ぜんニ入、右茶湯相濟五

過ニ帰宿

一今日土用ニ入候故、懸物書物など虫干之ため取出し候、夫

分四時分ニ御新宅へ罷出、首尾能致御目見良しはらく御前

ニ罷有、昼前ニ帰宿仕候

一今晩夜ニ入、真鍋五郎右私宅へ被参候、様子ハ内々勘三郎

所持之番神鉢親勘助時分我等方へ越被申度由、尤勘三郎

も其通ニ被存候へ共、何角と延引被致候内、勘三郎跡目も

無之候故、五郎右手前ニ先指置被申候へ共右之存寄、其上

五郎右ハ他名ニ成被申候へハ、旁以手前ニ難指置候間、我

等方へ越可申由、弥五左衛門ニ度々被申、立元などニも物

語いたし候へ共、我等あいさつニ尤其通ニ而も可有之候へ

共、おそからざる儀之由あいさつ仕置候故、今晚被致持参

是非我等手前ニ置候様ニと被申候故、余ノ道具ニ而候ハ、

何と被申候とも合点申間布候へ共、是ハよく徳ニ罷成道具

ニ而無之、我等共家ヲはなす物ニ而無之候間、左候ハ、我

等手前ニ先指置可申由あいさついたし留申候、右之あいさ

つ水見被致候、与左も参懸りあいさつ也

同六日 終日雨

今朝四時分ニ御新宅へ罷出候、追付致御目見しはらく御前

ニ罷有、昼前ニ帰宿仕候

一大殿様土用之内御機嫌御窺之為御使栗生五郎兵衛御指越、

一種御上ケ被為成候

一曇花院様去四日御逝去之由、今日京都申來

同七日 四前ニ小雨

今朝四時分ニ御新宅へ罷出、追付致御目見しはらく御前

ニ罷有、昼前ニ帰宿仕候

同八日

先日真鍋五郎右持参被致候番神鉢、今朝とくと致拝見我等

星甲とならべ見申、扱始をかむり候而土蔵へ納申候

一今朝四時分ニ御新宅へ罷出候処ニ、早速致御目見しはらく

御前ニ罷有、御咄之御あいさついたし御前退出仕候、例と

乍申別而今日ハ仕合殘所無之、昼前ニ帰宿仕候

同九日 時々小雨

今朝四前ニ御新宅へ罷出候処ニ、頓而致御目見しはらく御

前ニ罷有、昼前ニ帰宿仕候

同十日

大殿様今朝五前ニ出御被遊若手迄被為成候、明日陽山へ可

被為成由、拙者儀今朝卯ノ刻ニ罷出、首尾能致御目見、五

過ニ帰宿仕候

一四過ニ権五郎、梅松召連吹上下屋布へ参、せん水ニ而およ

き習初させ申候、海安、水見、真鍋五郎右、長田左平太な

とよび緩々と語り、七過ニ帰宿

同十一日

今昼前ニ宇治屋布へ参候、娘少祝儀之事有之候而振廻申候、

梅松斗召連参緩々と語り、七半時分ニ帰宿

同十二日

今日終日宿ニ有之、替事なし

同十三日 昼前ニ少雨

昨日之通替事なし

同十四日

昨日之通替事なし

同十五日

今朝七過ニ和歌山罷出陽山へ致伺公候、右ハ殊外之湯氣殊

土用之内ニ而も御座候間、御機嫌奉何度存、又今日之御礼

ヲも申上候様ニ伺公仕度旨、松平九郎左方迄申達候ニ付、
左候ハ、其通ニいたし候様ニと忝御意ニ而伺公仕候

一粉川へ五前ニ參着致支度、追付先左京様へ致伺公御目見仕、

夫方陽山へ罷上候処ニ、首尾能致御目見、過分忝御意とも
ニ而御料理可被下候間、先宿所へくつろぎ候様ニと之御意

ニ而四過ニ致帰宿、扱昼過ニ罷上候処ニ御料理被下御酒数
盃被下、扱御前へ被召出、今度御立被為成候御座之間御見

せ被為成、又御前ニ而御酒被下、其上御盃頂戴仕、剩御前
へも御取上被為成冥加至極成仕合也、扱御鷹之ひばり五御

前ニ而頂戴仕候

一今晚ニも御暇可被下御様子ニ而御座候ニ付、明日ハ御加条

ニ而御座候幸の儀ニ御座候間、明日之御祝ニ奉達罷帰度旨
申上候処ニ、御機嫌之御事ニ而左候ハ、左様ニいたし候

様ニと之御意ニ而七過ニ退出仕、粉川ニ一宿いたし候

同十六日 晩方少雨、夜ニ入候而も降

今朝左京様為御使者上田平六方を以、忝御意ニ而瓜致拝
領候、必御礼ニ罷上候儀無用ニいたし候様ニと御意之旨、

くれく平六方被申聞候へ共、四時分ニ罷出、天野孫惣方
ニ御礼之段申達、扱陽山へ罷上候処ニ、頓而致御目見忝御

意ニ而左京様と御加条之御祝被遊候、其節御前へ被召出御
祝頂戴仕候、了念、快遊、三説、又兵衛も被為召參候ニ付、

此衆も御前へ罷出候

一其以後御酒給候様ニ御看可被下由、御直ニ御意被為成種々
結構成御看致頂戴、御酒数盃被下候

一其以後又新御座之間へ被召出緩々と御咄被遊、又御前ニ而
御酒被下、其上ニ而御暇被下重畳過分忝仕合共ニ而、八時

分ニ退出仕候

一粉川へ帰宿仕候と追付左五之丞被參、少御用之儀被申聞候、
就夫候而も忝御意とも也、左五之丞被罷帰候而支度いたし

七前ニ出船仕、ぼう堤分上り、六半前ニ帰宿仕候

同十七日 五半時分少雨

今朝卯ノ刻ニ御名号奉懸、夫方和歌へ參候、原田市十二少
申談儀有之ニ付、雲蓋院ニ而待合右之段申談候

一大殿様為御代參市十郎御指上被為成候、右市十郎相勤以後

拙者なども奉拝、夫方如例大師堂へ拙者ハ致參詣罷帰候処
ニ、路次ニ而左京様ニ懸御目候、夜前俄大殿様被仰出、御

自分之御參詣ニ被為成御座候由御意被成候、八時分ニ左京
様陽山へ御帰被為成候由

一御名号八前ニ奉卷納申候

同十八日

終日宿ニ有之、替事なし

同十九日

終日宿ニ有之、替事なし

一かな之御文巻物ニ出来いたし候、京都今晩夜ニ入鈴木善兵衛持参、折節小笠原与左、齋藤源藏、真鍋五郎右、鵜飼海安、三岡水見呼居被申候ニ付、無抛披キおかませ申候、与左衛門ハ内々及承拝見致度と願申候ニ付、旁以右之通也

同廿日

左京様今八時分ニ陽山夕御越被為成、頓而和歌へ御参詣被遊、七過ニ西之御丸へ被為入候、拙者儀七半時分ニ西之御丸へ罷出、則致御目見しハらく御咄之御あいさつ申上、日ノ入前ニ帰宿仕候、今日ハ少暑氣ニ痛申候ニ付、今朝和歌へハ伺公不仕候

同廿一日

今朝五時分ニ左京様養珠寺いも七山へ御参詣被遊、追付西之御丸へ被為入、昼過ニ陽山へ御帰被為成候、拙者儀今朝六半時分ニ養珠寺へ致伺公、左京様致御目見御拝以後右御

両所御仏前奉拝、四時分ニ帰宿仕候

同廿二日

今八時分ニ堀田孫方へ茶湯ニ参候、三説、海安相客也、与左、水見も被参候、懸物玉舟、花入宗旦竹ノ筒、茶入木目ノ寸物、茶わん大藪新右所持之瀬戸茶わん、かうだいなしと云由、茶杓遠州、香箱春慶ぬり之ねぶとなり、三つ羽鴻ノ霜ふり、三羽横ならび、大藪新右ゆい被申候りうの由、釜雲龍、くわんしつけふくさニ而上おろし風炉、右釜ノ対、水指平キ備前焼か、たらいの水指ヲ請候様子也、右茶湯相濟、七過ニ帰宿仕候

同廿三日

今朝四過ニ正木五郎右衛門、同郷右衛門私宅へ参候、郷右衛門ハ来月五日如例大殿様へ殿様御生身玉之御祝儀御上被成候、為御使昨晚当着申候、就夫殿様過分忝御意之段申聞候、郷右衛門儀来月三日ニ大殿様御用人衆迄御使之段申達候筈ニ御座候、夫迄ハしのび分ニ而罷有候由、就夫御意之御礼津田治兵迄申達候儀も三日過可然候由申候ニ付、延引いたし候

一今昼時分ニ吹上下屋敷へ参、権五郎、梅松ニおよぎけいこ

致さ七候、源藏、海安、水見被參、緩々と語り夜ルノ五過ニ帰宿仕候、然所ニ菅沼九兵衛陽山ハ罷帰、拙者帰宿之時分私宅ニ而出合、大殿様左京大夫様ハ過分忝御意之段被申聞、頓而帰り被申候

同廿四日

今朝大知寺へ為御名代原田市十郎御上被為成候、左京様ニハ去廿一日御參詣被遊候故、今日ハ御延引被為成候、拙者儀今朝六半時分ニ奉參詣、夫ハ養行寺へ致參詣、五過ニ帰宿仕候

同廿五日

今朝早天ニ御影書院上段之床ニ奉懸、扱蓮心寺へ致參詣、五過ニ帰宿仕、八時分ニ行水いたし、御影奉巻納申候

同廿六日

替事なし、了法寺へ為使崎山利右衛門を以瓜遣ス

同廿七日

先日左京様陽山ハ爰元へ御越之刻今度出来申候、左京様御座所へ大殿様頓而被為成御様子ニ御座候、左候ハ、其節拙者儀致伺公候様ニと被思召之旨、御直ニ被仰聞候ニ付而奉畏候、何時ニ而も參上可致旨御あいさつ申上候、然所ニ

明廿八日大殿様、左京様江可被為成之旨及承候ニ付而、則可致伺公候へ共、自然如何布も可有御座候哉、為念少菅沼九兵衛方ハ御内意伺被申聞候様ニと頼申候ニ付、九兵衛方ハ伺申候処ニ、大殿様へも被仰上候へハ、早拙者儀參候様ニと原田市十郎方ハ御申越さ七被成候由ニ御座候間、弥伺公申様ニと左京様御意之旨、九兵衛方へ之御返事參候

一其以後原田市十郎方ハ之書状到来仕候

一今朝四時分ニ大殿様ハ御鷹之ひばり十致拝領候、陽山ハ被下候旨、由比半左衛門方ハ被申聞致頂戴候、則此御礼ニも致伺公度由、今朝松平九郎左、松下佐五之丞迄申越候処ニ其返事ニも弥明日伺公いたし候様ニと被申越候

一久々之約束ニ而今晚志賀弥三左、杉田市郎左、中川七左、平井助左、山口宗休、天野三休、若尾友無、私宅ニ而振廻申候、幸と今朝致拝領候御鷹之ひばり披候而頂戴仕候

同廿八日 終日小雨

夜ルノ八過ニ和歌山罷出、陽山へ致伺公候、岩手之渡ニ而夜明五前ニ粉川へ參着、支度いたし四時分ニ陽山へ罷上候処ニ、早速致御目見過分忝御意共也

一今日左京様へ被為成候間、御供ニ可被召連由御意御座候ニ

付、先左京様へ致伺公御移徙之御祝儀旁申上、又大殿様御殿へ罷戻り、扨昼時分ニ被為成候、致御供候処ニ、御相伴被仰付左京様御盃頂戴、其以後又大殿様御盃奉頂戴、剩右御両殿様拙者ニ被下候御盃御取上被為成、冥加宜敷仕合とも也

一大殿様左京様へ御肴御時服五被進、扨御盃の上ニ而御指領之御腰物被進之候

一予州左京様御領分之新米并鮎しゆつき參候ニ付、幸と御披キ被為成御祝被遊候、拙者式も御前ニ而頂戴冥加至極成仕合也

一うたい候者喜大夫ともニ三人罷出、御酒の内うたい申候

一御膳過左京様御手前ニ而御茶被進之候、にら山之御茶入こき手之御茶わん也、大殿様被召上左京様へ被進、其御跡拙者頂戴仕、過分難有仕合とも也

一御茶過八時分ニ御帰被為成候、追付左京様御礼ニ御出被為成御帰被成候、其御跡ニ而拙者ニ御暇被下御殿退出仕、夫左京様御玄関迄致伺公、今日之御祝御礼等申上、陽山罷出候

一帰宿仕候と追付、左京様左為御使者白井十兵衛方被成下、

御肴兩種致拝領候御意之段ハ、今日大殿様被為成御機嫌能御大悦被遊候、次ニ拙者儀能御時分ニ致伺公、御機嫌ニ被思召之旨過分忝御意也、就夫必御礼ニ罷上間布候、何も迄以使も不申様ニとくれく被為入御念候御意とも也、右御意之上ニも可罷上儀ニ候へ共、御盃ニ而数盃被下散々給醉申候故、御意ニしたがい漸何も迄以使者御礼申上、七時分ニ粉川罷立、夜ニ入四前ニ和歌山へ帰宿仕候

一悴子梅松儀御隠居様ニ而可被召仕之旨、殿様へ御内意被仰進候間、大殿様へ御奉公致さ七候様ニと御意之旨、久野丹州、渡部一学方左之書状、今晚夜ニ入当着仕候

同廿九日 終日雨

右梅松儀ニ付、早々陽山へ為御礼伺公可仕候へ共、梅松ヲも召連御礼ヲも申上さ七度奉存候間、先取あへず御礼、又右之指図ヲも頼入候旨ニ而、原田市十、松平九郎左、松下佐五之丞方迄、今朝早々為使大多和治右衛門指越申候

一其以後原田市十方、加納平次右方、水野平右、志賀弥三左へ右御礼ニ伺公申候、帯刀方へも寄候而、右之段申談候

一今晚暮合左正木五郎右衛門、小笠原与左衛門、真鍋五郎右衛門、斎藤源藏方、海安、水見、長田左平太など被參、梅

松為祝儀ゆるくと咄、酒などのミ被申、夜半時分ニ帰り被申候

同晦日

今日ハ娘とも梅松為悦私宅へ參、ゆるくと祝候而夜ニ人帰り申候

七月朔日

今朝表へ罷出何も礼衆ニ逢申候

同二日

今朝日出時分ニ坂田へ參詣仕候、権五郎、梅松召連候

一御法事之時分ニ而御膳備之時分致參着候故、則御膳本二三奉備候、扱御法事過致焼香奉拝候、其外如例所々參詣相動、其以後了法寺并常福寺へ齋進之候、正木五郎右衛門、小笠原与左衛門、菅沼喜右衛門、齋藤源藏、真鍋五郎右衛門、同文源右衛門、海安、水見、參詣也

一齋過候而了法寺、常福寺之談義所望仕二座有之、右談儀相濟後段出候、扱致退出候時分、海安所望ニ而御堂之うしろゑんかわニ而酒出し候、今朝了法寺へ帷子壺重持參、常福寺へ談儀之上ニ而帷子一つ遣し候、今日ハ長酒も無之、八

前ニ帰宿

同三日

終日宿有之、替事なし

同四日

我等足輕小左衛門と申者之養子之儀ニ付、帯刀方へ治右衛門使ニ指越、其以後左次兵衛指越候、帯刀方も青地与五兵衛使ニ被指越候、彦坂八郎右方へハ市左衛門使ニ指越申候、右之儀無替事相濟候

同五日

今晩八時分ニ梅松召連宿罷出陽山へ致伺公候、岩手之渡しニ而夜明五前ニ粉川へ參着、扱支度いたし、四時分ニ陽山へ罷上候処ニ、追付梅松御礼申上候様ニと被仰出、太刀目録ニ而首尾能御礼申上候、其前方梅松儀名をも替させ、御礼申上候様ニ可仕哉と松下佐五之丞願奉伺候処ニ、尤ニ被為思召候、望之名有之候哉と御尋ニ付、内々書立持參仕候ヲ佐五之丞ニ相渡置候付而、右之内主税助ニ致候様ニと被仰出、則折紙ニ名書いたし御礼申上させ候処ニ、種々過分忝御意共ニ而御のし主税助奉頂戴候、夫々左京様御座所へ召連致伺公候処ニ、則御前へ被召出箱肴之御礼申上させ候、

過分忝御意共ニ而主税助を八直ニ粉川之宿へ返し申候、拙者儀ハ折々陽山へ致伺公、御機嫌奉窺候ニ付、毎度粉川ニ罷有程遠ク不自由ニ御座候ニ付而、少小屋場を拝領仕度奉願候、殊ニ主税助被召出候へハ、尚以之儀ニ奉存候処ニ、頃藤崎ニ而屋布致拝領候、其御礼をも申上候

一 今昼時分從中納言様如御嘉例御生身靈之御膳御上り被為成候、大殿様ニハ御奥ニ而御膳被召上候、左京様ニハ御表ニ而御膳被召上、平右衛門、松之助、了念、拙者御相伴被仰付候、江戸分爲御使正木郷右衛門被為指越候ニ付而、御盃台出候と則左京様御盃郷右衛門ニ被下、宮様分爲之御使海野五郎三郎ニ御盃被下、扱拙者共ニも御盃被下、志賀弥三左衛門、川井善大夫、扱平次右衛門其外御隠居様衆、頭立候衆ニ御盃被下候、其内御拍子、高砂、はセを、祝言、三番御座候、扱後段之御振廻出、又拙者とも御相伴被仰付候

一 右御振廻相濟候と則郷右衛門、五郎三郎被召出御返事被仰聞候、其節御あいさつ申上、扱良しはらく御前ニ罷有退出仕候刻、御鷹之雲雀十御前ニ而致拝領候、其以後平右衛門、松之助、了念、弥三左衛門など御鷹之雲雀致拝領候、扱陽山分直ニ藤崎屋敷ヲ見候而様子申付、粉川之宿へ帰り致支

度、七時分ニ出船、暮合ニ鷹場上野山屋布へ参着、一宿仕候

同六日

今朝四時分ニ主税助召連鷹野ニ罷出、黒鴨三、よし五位一、鷺一取せ、七前ニ上野山屋布へ罷歸候、雲雀も五、二郎太郎ニあわさせ申候、水見昨晚分参居被申候故、昨晚分語り候

同七日

一大殿様昨日陽山分岩手へ被為成候ニ付、今朝六半時分ニ主税助召連、岩手へ致伺公、四時分ニ御殿へ罷出候処ニ、首尾能致御目見、今日之御祝儀申上、しはらく御前ニ罷有、殊御鷹之ひばり十御前ニ而致拝領候、松之助も御鷹之ひばり拝領被申候、主税助儀ハ致御目見候已後御次之間ニ罷有候処ニ被召出、御前ニしはらく被指置、其上御鷹之ひばり致拝領候、過分難有仕合難申尺候、扱御用人衆部屋へ参、何もニ御礼申達、御酒被下罷歸候様ニとの御意ニ御座候、其段過分至極成由各迄申達、早々御殿退出仕、左京様御座所へ致伺公今日之御礼各迄申達、岩手之宿へ参則罷出、八前ニ和歌山へ罷歸候

同八日 昼過分雨つよく降

今日權五郎生身靈之祝儀、八時分ニ權五郎部屋へ參候、正木五郎右衛門、小笠原与左衛門、菅沼喜右衛門、斎藤源藏、真鍋五郎右衛門、梅溪、海安、水見、永庵も參候、如例緩々と祝候而、四過ニ何も帰り被申候

同九日 四時分少雨降

終日宿ニ有之、替事なし

同十日

今日如例生身靈之為祝儀娘共私宅へ參振廻申候、夜ニ入五過ニ何も帰り申候

同十一日

今昼時分ニ吹上下屋布へ參、子共ニおよきけいこ致させ候、海安、水見、左平、太たと被參咄被申候、今晚真鍋五郎右馬見候而所望申候

同十二日

大殿様今晚夜ニ入、岩手分御機嫌能御帰館被遊候、拙者儀主税助召連、暮合前分罷出、入御之時分首尾能致御目見候、扨何も退出仕候、拙者儀ハ少跡分罷出候処ニ、何も被為召候旨ニ而中口分罷戻り御前へ罷出候処ニ、今日御川狩之鯉

被下置之旨、御直ニ御意被為成過分忝仕合ニ而退出仕、夫

分左京様御玄閑迄致伺公、御帰館之御祝儀又今日大殿様へ如御嘉例御生身靈之御祝儀御上被為成候御悦菅沼九兵衛ニ申置、帰宿仕候

一昨日真鍋五郎右馬見候而所望申候ニ付、今晚右之馬五郎右方分ひかセ越被申候

同十三日

今朝四前ニ主税助召連御新宅へ罷出、首尾能致御目見しハらく御前ニ罷有、扨半入ニ陽明全書御よまセ被為成候ヲ承、昼過ニ帰宿仕候、隠居衆も御前ニ罷有候

一 如例今朝養珠寺、養行寺へ御燈籠指上申候

一 今八過了法寺、蓮心寺へ如例御茶湯茶指越申候、蓮心寺へハ銀子金子是又如例遣し申候

一 今晚暮合如例御迎火となし、焼香御水むけ仕候

同十四日

今朝日出時分ニ了法寺へ致參詣五過ニ帰宿、則奥之盆棚へ參、焼香水むけ配膳いたし、蓮心寺へハ為代參大多和治右衛門指越申候

一 七時分ニ奥之盆たなへ、今朝之通焼香水むけ配膳いたし、

扱蓮心寺へ致参詣候、了法寺へハ為代参小林左次兵衛指越申候

一 蓮心寺ハ直ニ養珠寺へ致伺公、大殿様御参詣ヲ相待罷有候、日ノ入合前ニ大殿様養珠寺へ御参詣被遊候、左京様御供被成候、御拝相濟清水へ被為成御座候、御跡ニ拙者共罷出奉拜候、扱いも七山へ被為成候、御供相勤申候、御下向之御跡ニ而奉拜候

一 いも七山ハ御舟ニ而御戻り被為成候、如例舟ニ而はな火御座候

一 妹背山ハ拙者儀陸ヲ罷帰候、直ニ養行寺へ参詣いたし、五前ニ帰宿仕候

一 養珠寺へ如例銀子志杖持参仕候

同十五日

今朝養珠寺へ為御代参加納平次右衛門御上被為成候、就夫拙者儀日出前ニ宿罷出、養珠寺へ致伺公、平次右衛門御名代之御拝相勤候以後奉拜、夫ハ妹背山へ平次右衛門致同道、是又平次右衛門相勤候以後奉拜候

一 妹背山ハ直ニ蓮心寺へ致参詣、庭前之らん持参仕候、五過ニ帰宿仕、則奥之盆たなへ参、焼香水むけ配膳いたし候

一 四前ニ主税助召連御新宅へ罷上候処ニ、早速致御目見、主税助をも被召出御懇ニ御言葉被為懸過分忝仕合也、其以後拙者儀良しハらく御前ニ罷有、昼前ニ帰宿仕候

一 七前ニ奥之盆棚へ参、今朝之通相勤、夫ハ了法寺へ参詣仕候、庭前之らん持参いたし、了法寺ニ而しハらく語り暮合ニ帰宿、則御おくり火とぼし、焼香水むけ仕候

一 今朝了法寺へ為代参大多和治右衛門指越、如例干飯遣し候
一 今晚蓮心寺へ為代参小林佐次兵衛指越申候

同十六日

今朝四前ニ御新宅へ罷出、首尾能致御目見しハらく御前ニ罷有、昼時分ニ帰宿仕候

一 今日如例娘とも敷入ニ参、暮合ニ何も帰り申候

一 今朝了法寺へ為代参大多和治右衛門指越申候、蓮心寺へハ小林佐治兵衛遣し申候

同十七日

大殿様今朝四前ニ和歌へ御参詣被遊、昼前ニ御帰館被為成候、今日も白御帷子ニ御長袴也、拙者儀今朝日出時分ニ宿罷出、和歌へ致伺公右御供相勤、御帰館以後帰宿仕候

同十八日

今朝四時分ニ主税助召連御新宅へ罷出候処ニ、早速致御目見候

一從相州様為御使者大崎与左衛門方被為指越候ニ付而御対面被遊候、其節も御前ニ罷有御あいさつ申上候、扨御下屋布へ被為成候、其節左京様御領地之町人庄屋以上十人、今度左京様へ御礼ニ致伺公候者共、大殿様へも御礼申上候、其節も御あいさつ申上、昼過ニ帰宿仕候

一主税助今日ハ兩度迄致御目見、御懇ニ御言葉被為懸過分忝仕合也

一今晚主税助為祝儀一門之衆、其外語り候衆振廻申候、何も

八時分ニ被參、夜ニ入五過ニ帰り被申候

一今朝主税助ニ今度之為祝儀信国之刀遣し候

一夜ニ入從左京様為御使者堤佐左衛門方被成下忝御意ニ而、一箱節一箱主税助拝領仕候、御礼ニ罷出候儀必無用と被仰下候へ共、先主税助御礼ニ罷上候、菅沼喜右衛門同道也

同十九日

今朝四前ニ宿罷出、左京様へ致伺公、昨晚以御使者忝御意殊御看一種主税助致拝領候、御礼御用達衆迄申上、夫々御新宅へ罷出、則左京様へ致御目見右御礼ヲも申上候、其以

後追付大殿様へ致御目見しはらく御前ニ罷有、昼過ニ帰宿仕候

一今晚菅沼九兵へ茶湯ニ參候、布施三説、飯嶋五郎右、鵜飼海安相客也、茶湯過候而治兵衛、七右衛門、市右衛門呼被申少々小舞有之候、八時分ニ參、夜ニ入五過ニ帰宿仕候、かこいの道具ハ、牡丹花切之懸物、青地どうつかの花入、茶入春慶、瀬戸茶わん、釜声屋片付也、水指古備前、茶杓金森宗和作、香箱今渡り青かい立布袋、書院居間所々ニかざり物品々有之

同廿日

大殿様今朝四前ニ和歌御靈屋へ御仏參被遊候、拙者儀五前ニ和歌へ參、御參詣ヲ相待御供相勤申候、御下向之節和合院へ被為入しはらく御休息被遊候、其内御茶被召上、拙者ニも御茶被下過分忝仕合也、右之已後雲蓋院も御前へ被出少之間御咄被遊、頓而御下向被為成候御跡ニ付、拙者儀昼前ニ帰宿仕候

同廿一日

大殿様今朝五過ニ養珠寺へ御參詣被遊、夫々妹背山へ御參詣被為成、四過ニ御帰館被遊候、拙者儀今朝六半時分ニ御

先へ致伺公、右御參詣之御供相勤御跡之帰宿仕候、其節善
林寺へ見廻申候

同廿二日

今朝四前ニ主税助召連罷出候処、頓而致御目見主税助ニも
御懇ニ御言葉被為懸、過分忝仕合ニ而、拙者儀ハ良しハラ
く御前ニ罷有、昼時分ニ帰宿仕候

同廿三日

今度主税助被召出候、為祝儀原田市十、加納平次右、松平
九郎左、宮地久右、福岡大郎八、鳥居五右、丹羽郷左、高
田喜八、長坂小右方振廻申候、何も八時分ニ被参ゆるく
と咄被申、夜ニ入五過ニ帰り被申候、勝手へハ正木五郎右
衛門、真鍋五郎右衛門、菅沼喜右衛門、天野孫惣も被参候、
鶴飼海安也、永庵并子共よび候而まわセ申候、拙者儀今日
ハ御新宅へハ不罷出候

同廿四日

今朝ハ大知寺ニ而御絶餓鬼御齋など御座候ニ付、例々おそ
く御絶餓鬼相濟候ヲ承合、五時分ニ罷出候処ニ、大殿様為
御代参原田市十郎致参詣罷帰候由、殿様之為御代参安藤
帯刀致参詣罷帰候、大殿様ニハ御機嫌次第御参詣可被遊之

由ニ而御時分も知不申候故、拙者共も大知寺之養行寺へ致
参詣、追付帰宿仕候処ニ、大殿様四時分ニ御参詣被遊候由
承候ニ付、入御之節御目見可致と存、御新宅へ罷出被為人
候節、首尾能致御目見しハらく御前罷有、四過ニ帰宿仕候
一今朝市十郎御代参相勤候儀、御用達中無念ニ而相違之由、
就夫御代参御座候へ共、追付御参詣被遊候、右ハ去年少御
病氣ニ付而御代参被遣候ヲ、其通と御用人衆相心得相違之
由

同廿五日

大殿様今朝五時分ニ先岩手迄被為成候、拙者儀六半時分ニ
主税助召連罷出、出御之時分首尾能致御目見、御立以後市
十、平次右、弥三左少御用御座候而しハらく御新宅ニ罷有、
五半時分ニ帰宿仕候

一罷戻り行水なといたし蓮心寺へ参詣仕、夫々直ニ宇治屋布
へ参、御靈宝とも虫干いたし候ヲ拝見仕しハらく罷有、八
前ニ帰宿仕候

同廿六日

今朝四過ニ岡野平太へ見廻申候、来月ハ追付有馬へ湯治可
被致との事ニ候故、暇乞旁ニ参しハらく語り、昼過ニ帰宿

同廿七日

終日宿ニ有之、替事なし

同廿八日

昨日雲蓋院陽山へ御越、其御帰りニ拙者藤崎之屋布へ御立寄御祈祷被成候御札被懸御意、屋布之所々ニ御納御帰候由、昨夜藤崎へ申越候ニ付、今朝拙者为御礼可参と存候へ共、不得手透候故、为名代権五郎指越申候、大多和治右衛門をも相添委御礼申越候、拙者儀今朝ハ表へ罷出何も礼衆ニ逢申候、今日ハ大風雨もふり申候

同廿九日

今朝福岡大郎八方へかこいニ而茶ヲふるまい申候、海安斗相客也、六半前ニ被参、四前ニ帰り被申候

一 今晚三井浄定振廻申候、松井市兵衛相伴ニ呼申候、是ハ我等広沢之茶入見申度由浄定立而所望ニ付而也、菅沼九兵、同喜右、鶴飼海安、三岡水見被参語り被申候、八時分ニ参暮合前ニ帰り申候